令和３年３月１日

令和２年度　練馬区立開進第四中学校　学校評価報告書

練馬区立開進第四中学校
校 長　　児 島　泰 彦

1　自己評価結果

(1) 概　要

① 毎年同じアンケート項目で実施し、３年間の経年変化を比較している。
② アンケート項目の「そう思う」「ややそう思う」を『プラス評価』とした。
③ アンケート項目の「あまりそう思わない」「そう思わない」を『マイナス評価』とした。
④ プラス評価を、「100～80%をA」「79～60%をB」「59～40%をC」「39～0%をD」の４グループで分類した。
⑤ 昨年度と比較した各評価の±5%の増減を各評価の『上昇』・『下降』とした。
⑥ 昨年度と比較し、評価の高い項目は今後も指導を継続し、評価の低い項目を中心に来年度に向け教育内容を見直し改善していく。

(2) 昨年度との全体比較

下記の表は、昨年度と一昨年度の結果と比較し全体的な傾向と特徴をまとめたものである。

	２年度	元年度	30年度
プラス評価が100～80%のA評価だった項目数	１７	１７	１７
プラス評価が　79～60%のB評価だった項目数	0	0	1
プラス評価が　59～40%のC評価だった項目数	1	1	0
プラス評価が　39～　0%のD評価だった項目数	0	0	0

今年度 87.9%の家庭から回答をいただき、ほとんどの質問項目がプラス評価 A の 80%以上であったことはうれしいことである。しかし、自由記述の声を見ると我々の対応や保護者からの要望は引き続き強いものがある。特に家庭学習や補充授業の充実を望む声は高い。

(3) プラス評価の資料と分析

① プラス評価が100～80%のA評価だった項目

1	本校では、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われていると思いますか。
2	本校は、生徒の基礎学力を定着させるための取組を適切に実施していると思いますか。
4	本校の生徒は、よくあいさつができると思いますか。
5	本校の生徒は、ルールを守り、規律ある生活を送っていると思いますか。
6	お子様は、友人と仲良く、楽しく充実した学校生活を送っていると思いますか。
7	お子様は、相手の立場に立って考えたり行動したりすることができるようになったと思いますか。
8	本校は、生徒に校内の美化・環境整備に適切に取り組ませていると思いますか。
9	本校は、生徒に安全・防災（避難訓練など）に適切に取り組ませていると思いますか。
10	教員は、お子様の話を良く聞き、困った時には相談にのっていると思いますか。
11	教員は、お子様が悪い事をした時にはきちんと叱って指導していると思いますか。
12	本校は、学校だよりや学年・学級だより、ホームページ等で学校の様子を積極的に知らせていると思いますか。

13	本校は、地域の小学校と連携した教育活動に適切に取り組んでいると思いますか。
14	本校の部活動は、充実していると思いますか。
15	お子様の各教科の評価・評定は適切に行われていると思いますか。
16	本校は、生徒の将来を見通した進路について適切に指導していると思いますか。
17	本校は、運動会や文化発表会などの学校行事が充実していると思いますか。
18	本校の保護者や地域社会の人たちは、学校に協力的であると思いますか。

② プラス評価が昨年度と比較して 5%以上上がった項目【プラス評価の上昇】

1	本校では、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われていると思いますか。
10	教員は、お子様の話を良く聞き、困った時には相談にのっていると思いますか。

18 項目中、17 項目でプラス評価 A をいただき、さらにその評価の 12 項目が 90%以上であった。

特に、「充実した学校生活」「美化・環境整備」「安全・防災への取り組み」「学校の様子を積極的に知らせている」については、95%以上を超える理解が得られている。

(4) マイナス評価の資料と分析

① プラス評価が 79～60%の B 評価だった項目

［なし］

② プラス評価が 59～40%の C 評価（39～0%の D 評価だった項目　なし）

3	お子様の家庭学習の時間は、年度当初より増えたと思いますか。

生徒の家庭学習の習慣付けについて､学校でやり方･方法については教えることができるが、実際にやるかは生徒本人によるところが大きい。場所は各家庭で行わなければならず、保護者が適切な時間と場所を子供に提供しなければならない。各家庭での現状からの変化がも必要だと思われる。今後、家庭学習に対する教育相談の充実を図る。

③ プラス評価が昨年度と比較して 5%以上下がった項目【プラス評価の下降】

13	本校は、地域の小学校と連携した教育活動に適切に取り組んでいると思いますか。

今年度、新型コロナウィルス感染症の影響により、映像や手紙だけの交流になり、対面や相互訪問での交流ができなかった。また、教職員のアンケートでも低い評価となった。現状でできることを模索しつつ、例年通りの対面、相互訪問での計画を進めていく。

2　学校関係者評価

(1) 成果

① 保護者アンケートの回答において、ほとんどの質問項目がプラス評価 A の 80%以上であり、さらに、95%以上の項目が４つもあった。これは、日頃の教育活動が概ね理解されているものと考え評価でき、引き続き、充実した教育活動を期待している。

② 教員は、生徒の話を良く聞き、困った時には相談にのっている評価が高いことは、とてもうれしいことである。このようなことが、いじめの早期発見、即時対応に結びついているものと考えられる。また、今年度は、コロナ禍で見通しがもてないなか、４月からの臨時休業中も ICT を活用した全校生徒への個別対応を行ってきた活動などがあった。

(2) 課題

① 保護者の記述には、今まで、学級、学年などで個別に回答している内容のものが多く見受けられる。学校の現状をより多く知ってもらうことが必要である。

② 家庭学習の習慣付けについては、中学校に入学して急に変わるものではない。これは、各生徒、家庭の生活様式による影響もある。改善には、学校と家庭の両方の協力によるところが大きい。

(3) 改善策

① 学校の様子だけでなく、保護者の全体的な質問や要望について、学校便り、学年便り、ホームページなどでわかる形で回答する。このことで、個別に聞いていたことを知る機会をつくり、わからないことから不安・不信につながることを防止する。

② 家庭学習については、学活などで生徒にも指導し、定期テストへ向けての計画や普段の課題・宿題により習慣付けできるように生徒に働きかけている。また、各家庭での協力も大きく影響するので、保護者会などで各家庭へも呼びかけを行う。これらは、学力の向上を望むものであり、同時にわかりやすい授業へ取り組んでいくことにつながる。

３　評価結果の公表等

(1) 3 月中に評価結果を保護者に配布

(2) 3 月中に学校ホームページに掲載

４　次年度の学校改善に向けた校長の見解

今年度はコロナ禍の影響により、予定していた活動がほとんどできない状況であった。特に４、５月は学校が臨時休業となり、生徒が登校できない、生徒と接することができないという過去にない状況になってしまった。そんな中、どのような形で生徒たちに支援できるかを考え、オンラインによる教材の提供を行った。その数は１５０本を超え、少なからず学習の手助けを行うことができたと考えている。また、毎日の健康チェックもオンラインを通じて行うことができ、登校ができない中でも生徒との関係を築くことができた。

６月から始まった学校生活は、様々な制約がありながらも生徒たちの頑張りに助けられ、順調に進めることができた。しかし、学校公開の機会をもつことができず、保護者の方に学校の様子を見ていただくことができないことから、ホームページを活用して１日の出来事を毎日更新して伝えたり学年だよりや学校だより等を発行して、積極的に周知を図る取組を行った。近隣小学校との交流活動も残念ながら例年のように実施できなかったが、動画を活用して本校の活動を紹介するなど可能な限りの取組を行うことができた。

部活動については、活動時間が制約される中でも各部が創意工夫を凝らし、成果をあげることができた。ただ、教員と生徒とのコミュニケーション不足等、様々な理由から運営に支障をきたす場面も見受けられたので、改善を図っていきたい。

今年度も特に力を入れて取り組んでほしいという要望は「わかりやすい授業をすること」であった。授業内容の充実、生徒を引きつける手法など今後も改善を図っていくが、次年度はタブレット端末を利用した取組やデジタル教科書の使用も部分的に始める予定であり、本校の重要課題として取り組んでいく。

次年度においても、コロナ禍の状況が改善されないことが予想されるが、その場の状況を把握しつつ最善の対策を講じながら、生徒に寄り添った指導を心がけ、「毎日の登校を楽しみにできる学校」となるよう、教職員で総力を挙げて取り組んでいく所存である。